

北海道大発の医療系スタートアップ、メディカルフォトニクス(札幌市)は採血せずに血中の「にがり」を測定できる機器の販売を拡大する。機器に管理栄養士の健康指導などのサービスを加えることで現状の3倍以上の販売を目指す。

同社が2020年3月に発売したのは、血液の「にがり」を10秒程度でチェックできる「にがりチェッカー aLighD(キャライド)」。

# 血液の「にがり」10秒測定

## メディカルフォトニクス(札幌市)



計測値を基に有料で栄養指導を行うサービスも予定している

因となる「TGRich 00台売れている。30以上リボ蛋白」の量を光で計測の自治体や大手の製薬会社することで「にがり」の度合いや食品会社でも利用されている。健康維持の機器としてがわかる仕組みだ。

介護現場や高齢者などを中心に、現在までに約10引(E.C)サイトなどでの

販売価格は約2万円。幅が約5センチ、高さが6センチと小型で携帯にも便利だ。

使用は簡単でスマホの専用アプリを立ち上げ、キヤリドを前腕の静脈にあて、約10秒たてば「にがり」が計測できる。最も「にがり」が少ない朝の空腹時と最も濁りがある食後3〜4時間後に計測し、その「にがり」の差を数値化する。差が大きいと吸収される「にがり」(食事に含まれる脂肪分など)が多いことになる。

「にがり」の数値が高いと肥満につながる。そのため、事前の予防にもなる。「にがり」の度合いで食べる量やお

酒の量を調整するなどにより健康管理のものさしとなる。データは週や月単位でグラフ化され、血液の状況を定期的に観測できる。「にがり」もすぐ消えるような人は太りにくい、長い時間に病気の予防をしてもらいたい」と飯永社長は強調する。

一方で、「にがり」の度合いがわからなくてもその先の対策まではこの機器だけでは解決できない」とメディカルフォトニクスの飯永一也社長は機器の課題を話す。

課題克服のために、年内にも、栄養指導を目的とした本格的なサービスを追加する。管理栄養士が直接、一人ひとりに合った食事の献立を提供する本格的なサービスや月500円程度から手軽に始められるサービスなど様々なプランを導入することで、累計販売数3000台を目指す。

「高齢者のほか、体に気をつかい始める中高年の方に利用してもらい、事前に病気の予防をしてもらいたい」と飯永社長は強調する。

メディカルフォトニクスは15年に製薬企業に務めていた飯永社長が設立した。20年には北海道銀行から「どさんこ地域活性化ファンド」を通じた出資と、同行の融資で計約7000万円を調達した。調達資金は計測器の精度を改善するための開発費にあて、さらなる機器の機能向上も進めている。

(札幌支社 魚山裕慈)